

漫湖水鳥・湿地センター

たよい

2007年10月15日発行 No.51



観察会 漫湖自然観察ウォーキング

10月8日、高原建二先生を講師に招き観察会を行いました。

センター2階のレクチャールームで、漫湖に棲む生き物の生態系や渡り鳥の飛来調査の方法、なぜ沖縄は渡り鳥の中継地点となっているのか？など普段知ることのできない色々なお話を聞くことができました。

観察ウォーキングへ向けての準備が整ったところで、さぁ出発です!!センター横の水路でカワセミを2度観察することができました。一度目は見る事ができなかった参加者が多かったのですが、2度目は杭の上で休んでいる姿を観察することができ、「きれ〜い!!」「初めて見た!!」という歓声が飛び交いました。

あっちにカワセミ
が見えるよ!!



もえるぜ!!



橋の下を通り抜け、マングローブ林の前を見ると干潟が見えてきました。干潟の観察場所では、コサギやアオサギの他に、魚を捕まえ、空を気持ちよさそうに飛んでいるミサゴも観察する事ができました!!

移動中に、植物に関する説明や面白い話も色々聞くことができました。特にモンパの木の幹で水中メガネを作って海に潜っていたというお話は、質問も多くみなさん興味津々でした。

とよみ大橋からの観察では、セイタカシギを1羽観察することができ、参加者からは「足が長いね〜!!きれいなピンク色してるよ!!」といった声が……。子どもはもちろんの事、お父さん・お母さん方も童心に戻り、一緒になってはしゃぐ姿が見られました。自然観察ウォーキングという名の下に鳥だけではなく、身近な自然についても知る事ができました。



左上：植物の説明をする高原先生
左下：とよみ大橋での参加者の様子
右2つ：初めての草笛♪
(お父さんかなりプロでした!!)





夏便り

～ボランティアさんからの感想文～



「トントンミークラブを実施して」

上中 彩加

「また、来年もやってね」と、私はこの言葉を聞いて、やってよかったと本当に嬉しかったです。

今年のトントンミークラブはボランティアを中心に行う事になり、皆忙しい合間をぬってセンターに集まり、楽しくてためになるネイチャーゲームはないかと意見を出し合いました。センター職員の方にアドバイスをいただきながら、トントンミー掴み取り、この木何の木？、トレジャーハンターズ、カニ釣り、ネイチャークラフト、動物ジェスチャーを実施しました。特に記憶に残っているのは、「動物ジェスチャーゲーム」です。1回目はいろいろな動物、2回目は沖縄にいる動物をテーマにしました。このゲームの醍醐味は、グループ全員で1つの動物を作り上げることです。想像してみてください。一人でイノシシの真似をするのは簡単ですが、5人でやるとなると部分に分かれて息を合わせなくてはなりません。ボランティアが1人ずつリーダーとしてグループにつくのですが、どんな動物があたるかはクジを引くまでわかりません。難しい動物にあたった時も試行錯誤をし、子どもたちをうまくまとめました。

子どもたちは自然の中で遊びながら生物や植物などに触れることで、様々な発見や不思議に遭遇しています。トントンミークラブではネイチャーゲームの後に「まとめ」をしたことで学習につながるという「形」に残る遊びができたように思います。また、参加した子どもたちだけでなく、進行者である私たちも、自分のおもいがどうしたら子どもたちに伝わるかなど、事前学習から学ぶことが沢山あり、とても勉強になりました。「よく遊びよく学べ」といいますが、まさにそれができたと思います。夏休みの3日間ではありましたが、素晴らしい体験のできるトントンミークラブを新たなプログラムを加えつつ、今後もぜひ続けていきたいと思っています。



なんのマネしてるのかわかるかな？

ヒントは沖縄の生き物!!



事前準備から本番まで本当にお疲れ様でした★

「トントンミークラブを実施して」

宮城 愛

本年度のトントンミークラブも、夏休み期間中3回に渡って子ども達に漫湖の自然を感じてもらうため、センター職員の方々とボランティアスタッフとで協力し合い、「トントンミーつかみ」や「トレジャーハンター」、「ネイチャークラフト」など様々なプログラムを企画しました。

各プログラムを行うにあたり、予めトントンミーやカニを捕まえたりと自分も楽しみ、子ども達の喜ぶ顔を思い浮かべながら準備していたので、実際に子どもの反応が良かった時はとても嬉しかったです。また、プログラムの中には個人で体験できるものの他に何人かでグループを組んで行うゲームもあり、当日出会ったばかりの学校も違う子ども達が仲良くなれるから心配でしたが、みんなすぐに友達になって遊んでおり、私達大人も見習わなくてはと感じることもありました。

私は今年はいじめてボランティアとして参加しましたが、職員の方々やボランティア仲間の皆さん、何より参加してくれた子供達に助けをもらいながら毎回得るものの多い企画となりました。最終日に「また来年も来ます」と言ってくれた子どもがおり、トントンミークラブを実施して良かったと思いました。来年度も、この企画により多くの子ども達に参加してもらいたいです。

9月	羽数	先月との比較
ゴイサギ	4	↑
ダイサギ	6	↑
チュウサギ	5	↓
コサギ	15	↑
アオサギ	6	↑
ミサゴ	2	→
バン	2	↑
メダイチドリ	4	↑
オオメダイチドリ	1	→
ムナグロ	32	↑
ダイゼン	3	↑
キョウジョシギ	2	↑
トウネン	83	↑
ヒバリシギ	3	↑
アカアシシギ	22	↑
コアオアシシギ	3	↑
アオアシシギ	10	↑
キアシシギ	39	↓
イソシギ	28	↑
ソリハシシギ	17	↑
オオソリハシシギ	1	↑
ダイシャクシギ	2	→
チュウシャクシギ	27	↑
セイタカシギ	2	↑
ユリカモメ	1	↑
クロハラアジサシ	9	↑
カワセミ	2	↑
合計	331	↑

9月1日 ミナミトビハゼ

干潟周辺を散策途中、おもしろいものに出会いました。
かなり潮が満ち、岸まで水がきていました。
岸に近づくと、水面を「ピチャピチャ」動くものがいます。
しゃがみこんで何が動いたのか探してみると、ヤエヤマヒルギの支柱根にへばりついたトントンミー（ミナミトビハゼ）が見つかりました。しかも、1つの根に3、4匹…
トントンミーのかわいらしい姿を見ることができました。



9月15日 アカアシシギ

閉館前、展望室から干潟の観察を行いました。
この日はアカアシシギの姿が目につきます。
全部で14羽のアカアシシギがいましたが、なぜか他の鳥よりもアカアシシギが気になります。
斜めに差し込んだ太陽のひかりが脚の赤をより鮮やかに見せてくれたからでしょうか、透き通った赤色が浮かび上がっているように見えました。
自然が作り出してくれた色との偶然の出会いでした。



9月21日 オオソリハシシギ

もうすぐ満潮を迎えようとしている漫湖。満ちてくる水に少し脚をつけながら、羽づくろいをしている鳥を発見しました。
ダイシャクシギのようだけど・・・羽づくろいの合間に見せてくれたくちばしは、上に反っていました。
オオソリハシシギでした。

自然観察会「今年もやってきた渡り鳥!!」

日程:平成19年11月4日(日)
 対象:小学1年生以上(低学年は保護者同伴)
 定員:30名・要予約(先着順)
 講師:原戸 鉄二郎 先生
 集合場所:漫湖水鳥・湿地センター
 持ち物:筆記用具・帽子・タオル・歩きやすい服装、靴
 参加費:保険料100円

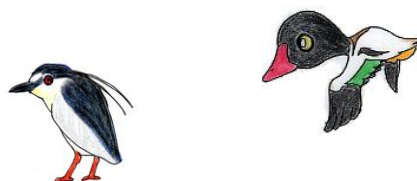


今年も沖縄に短い冬がやってきました★ 夏とは違う漫湖の様子を一緒にのぞいてみませんか?

ラムサール登録湿地 谷津干潟からのたより

10月19日まで「荒川 武夫さんの写真展」を行っています!!漫湖では見ることのできない鳥や、カワイコガモの姿など、色々な写真を展示していますので見にきて下さいね♪

～谷津干潟の鳥たち～



保育園・幼稚園	地域	中学校	地域
みどりヶ丘保育園	八重瀬町	鏡原中学校(1年)	那覇市
小学校		豊見城中学校(1年)	豊見城市
西崎小学校	糸満市	高等学校	
とよみ小学校	豊見城市	陽明高校	浦添市
垣花小学校(5年)	那覇市	大学・専門学校	
豊見城小学校(2年)	豊見城市	芝浦工業大学	東京都
長嶺小学校(3年)	豊見城市	その他	
白川小学校(1年)	八重瀬町	虹クリニック	那覇市
9月の団体入館者数 ★702名★		エコツーリズム	
		環境省	

*** 総入館者数 : 87, 728名 * 9月の入館者数 : 1, 52

0名

編集後記



干潟が徐々ににぎわってきました!!毎日望遠鏡をのぞくのが楽しいです♪みなさんも新たな発見をさがしに来ませんか?

久高

〈漫湖水鳥・湿地センター管理運営協議会(環境省・沖縄県・那覇市・豊見城市)〉

〒901-0241 沖縄県豊見城市字豊見城 982 TEL(098)840-5121 FAX(098)840-5118

開館時間:9:00~17:00

休館日:月曜日(月曜日が祝日、振替休日の場合・翌日) 慰霊の日・年末年始(12/29~1/3)

E-meil:manko_mizudori@ybb.ne.jp

HP:http://www.geocities.jp/manko_mizudori/